

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 088	提案機関名 横浜市漁業協同組合
<b>要望問題名</b> トリガイ養殖試験支援	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 近年、東京内湾資源が減少している中でトリガイの漁獲が増加している。しかしながら、トリガイは貧酸素水塊の拡大により漁場が覆われ多くは死滅してしまうことから、漁期は5月中旬までとなっている。そこで、漁獲されたトリガイのうち小さいものや重量の軽いものを短期間養殖して出荷を試みたい。初めての取り組みであり、養殖技術の指導をお願いしたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター    ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	水産技術センター	<b>担当部所</b>	企画資源部普及指導担当
<b>対応区分</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合) 沿岸水産資源再生技術開発事業費、水産業改良普及活動費			
<b>対応の内容等</b> 横浜市漁協本牧支所ではトリガイを漁獲して出荷しているが、数百円/kg と他県産に比べ安値で取引されている。市場関係者によると東京湾産のトリガイは身が薄く1個当たりの貝の重さが軽いそうで、貧酸素水塊に覆われて死滅する前に漁獲したものは、貝殻のわりに身が小さいと思われます。 また、貧酸素水塊に覆われて死滅するトリガイは有機物として分解され酸素を消費することから、低未利用のトリガイを漁獲し養殖する取組みは、環境浄化にも貢献すると思われます。 京都府の丹後トリや石川県の能登トリとして養殖されている技術を紹介して、本年から養殖試験ができるように指導する予定です。			
<b>解決予定年限</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			